てみると、
「それなら、東大寺のだいぶつとか、きょうとの金かく寺なんか、どうかな。そうそう、ふじ山の写真もあるよ。」
と教えてくれました。絵はがきや、本の写真をいっしょに見ながら、日本にもこんなにすばらしい所がいっぱいあるんだなあとうれしくなってきました。スージーもわたしの顔を見て、にっこりしました。
楽しい二日間が終わって、わたしたちはかたいあく手をしてわかれました。日本のいいところをもっともっと勉強して、日本のすばらしさを外国の人に知らせたいなあと思いながら、スージーの後ろすがたにいつまでも手をふりました。

24 道は生きている

道はふしぎだな。人間も通れば、子犬も通る。おまわりさんも通れば、フルスピードのしょうぼうじどう車も通る。ラーメン屋の屋台も通る。
りょ行帰りの人も通れば、これからたびに出ていく人も通る。となりのお店へいく子も通れば、となりの町へ行く車も通る。祭りの日には、みこしもとおる。
この道は、むかしお父さんが学校へかよった道。そしていま、わたしたちが学校へかよう道。この道はむかし、おじいさんも

通った道。そのまたおじいさんも、そのまたむかしのおじいさんたちも、みんなみんな、通った道。石ころ道だった時だいにも、どろんこ道だった時だいにも、草ぼうぼうの時だいにも、きっとだれかが通った道。

この道はみんながおとなになったとき、そのまた子どもたちも、学校へかよう道。

道はつづいています。となりの町へ、そのまたとなりの町へ。大きな道も小さな道も、まっすぐな道もまがった道も、めいろのように入りくんだうら通りの道も、どこかでかならずつながりながら、どこまでも、どこまでもつづいています。

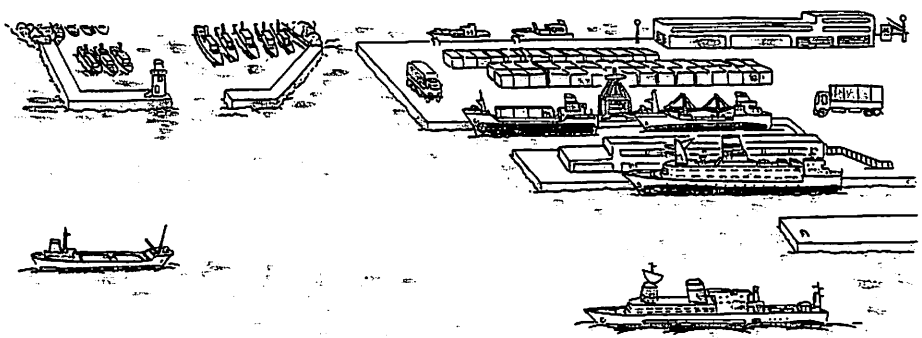
この道を東へ行けば、どんな町に出るでしょうか。この道を西へむかえば、どんな人に出あうでしょうか。

この道を山にむかえば道はだんだんけわしくなり、そしてだんだん細

くなって、じどう車が通れなくなってしまうかもしれません。それでも道はつづいています。人の歩ける道ならば、どこかにそっとかくされていて、とうげをこえ谷をわたり、道は山のむこうがわへとつづいています。

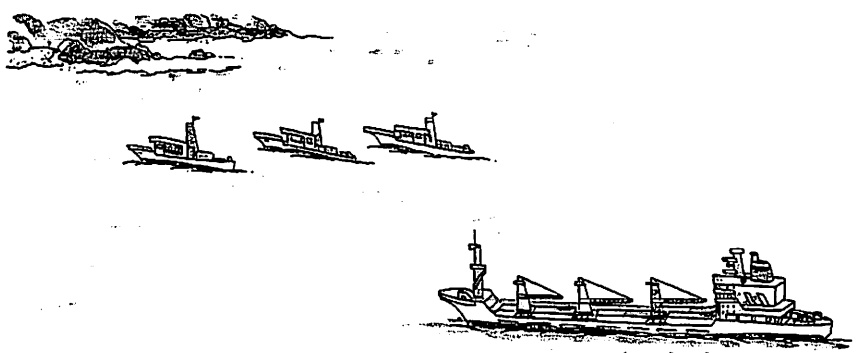
海にかこまれた日本では、道はかならず海がんへ出ます。日本の海がん線はふくざつに入りくんでいるので、いたるところに入りえがあり、その入りえにはみなとがあります。

そこからさらに、海の道がつづいています。大きなみなとも小さなみなとも、みなとどうしが船でむすばれ、日本のみなとと外国のみなとが、また海の道でむすばれています。



小さなみなとから出ていく船は、どんなさかなをとってきて、どこのみなとにとどけるのでしょう。大きなみなとから出ていく船は、どんなおきゃくやかもつをのせて、大海原に出ていくのでしょうか。

外国のみなとにつけばそのみなとから、道はふたたびつづいています。広いじどう車道路もあれば、暗いうら通りの小道もあります。道は家と家とをむすび、都市から都市へと通



りぬけ、川をわたり畑をよこ切り、山やまをこえ、国きょうをこえて、地きゅうをくまなくめぐっています。その道は、もう一度また海をこえ、わたしたちの町へともどってきます。

この道は、わたしたちの町の生さんぶつを見知らぬ国におくり出す道です。この道は、見知らぬ国の生さんぶつをわたしたちにとどける道です。

みなと、みなとに立ちよる船の、外国帰りの船のりたちは、外国でおぼえた歌を人びとに歌ってきかせました。その歌は、道をつたって町から町へ、りゅう行歌になって、国ぜん体に広がりました。外国からおくられてくる手紙や書もつやしんぶんには、海のむこうの国ぐにの、どうわや歌や、風景までえがかれてありました。

そうです。道は、人やものをはこんだだけではありませんでした。道は人やものをとおして、ニュースや歌やけしきまで、はこんでくれていたのです。アメリカからおくられてきた青い目のお人形には、それをつくった人たちと、それをおくってくれた人たちの、やさしい心がこめられてもいました。道は人間の心まで、はこんでくれていたのです。

テレビもなくラジオもなく、ひこうきも電話もなかったずっとむかしの時だいから、道はそんなふうにして、人びとの心と心をつないできてくれたのです。

24　道は生きている

2－(4)　生活を支えている人々や高齢者に，尊敬と感謝の気持ちをもって接する。（尊敬・感謝）

1主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

よい人間関係を築く根底には，相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。

この段階においては，何かをもらったり，お世話になったりしたときの「ありがとう」の感謝から，さらに自分たちの毎日は多くの人々から支えられていることに気付き，その恩恵に対する感謝まで高める必要がある。

〈子どもの実態について〉

三年生ともなると低学年のときと比べ，社会的な活動能力も高まり，学校生活，社会生活において視野が広がってくる。しかし，自分たちの生活が，身の回りの人や他の多くの人々のおかげで成り立っていることに気付かないことが多い。だからこそ，この期の子どもたちに自分は多くの人々に支えられて生きているんだという実感と，「ありがたいなあ」という感謝の気持ちをもたせたいと思う。

〈資料について〉

本資料は，富山和子『道は生きている』（講談社）の序文に一部加筆したものである。

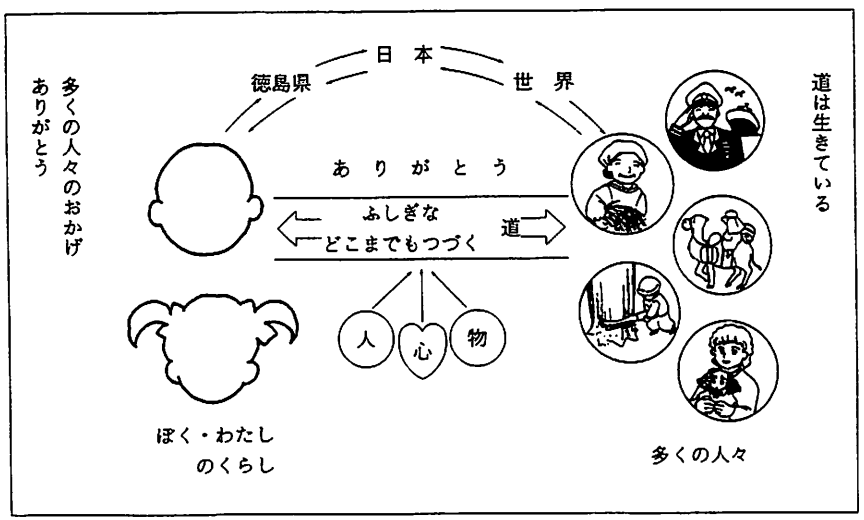
この資料を読んだ子どもたちは，目の前にある身近な道が，日本中をくまなく回り，海の道を通して世界中を駆け巡り，また自分の元へ帰ってくることに改めて気付くだろう。そして，道を通して自分自身が日本中，世界中のいたるところと関わりをもつこと，その経路を通じて，生活していく上での必要なものが得られ，数え切れない恩恵を受けていることを感じることだろう。

人々の心と心をつなぐ大切なはたらきをしてきた道の存在を考えさせながら，さらに，自分も多くの人々に支えられて今日があることを実感し，感謝の心をもち，自分の道をしっかり進んでいこうという意欲をもたせたい。

2ねらい

生活を支えてくれる多くの人々に感謝し，心の交流を深めよりよく生きていこうとする心情を育てる。

□板書



3展開

学　習　活　動	支援上の留意点
(1)「道」という言葉から浮かんでくることを話し合う。	・連想されることを自由に述べることで，資料に対する興味・関心が高められるようにする。
(2) 資料「道は生きている」を読んで話し合う。 ① 「道」のどんなところが不思議に思いますか。 ・ずっと昔からあり，いつもだれか通る人がいた。 ・これから先も，たくさんの人が通っていく。	
② どこまでも続く「道」について，どう思いますか。 ・この道をたどっていったら楽しいだろうなあ。 ・この道を通して，世界中の国々とも結び合っているなんてすごいな。 ・道がまた自分のところへ戻ってくるまでに，すてきな出会いがたくさんあるんだろうな。 ・船に乗ったり，車に乗ったり，歩いたりして世界中のあちこちの町に行ってみたい。	・できれば写真や地図などを活用し，どこまでも続く道を通して，自分は世界中の人々と関わりをもつ存在であることがとらえられるようにする。
③ いろいろなものを運んでくれた「道」からどんなことを感じますか。 ・ものだけでなく，作ってくれた人，送ってくれた人の心まで運んでくれたんだな。 ・道が運んでくれたものには，人間の真心がこめられているんだな。 ・今，自分たちが食べるもの，着るものにも人のやさしい心がこめられているんだな。	・道が私たちに届けてくれたものを考えることによって，そこにこめられた真心や恩恵が実感できるようにしたい。アメリカから送られてきた青い目の人形に視点をあてて話し合うことも効果的である（注参照）
(3) 多くの人々のおかげで，今の自分があると感じたことを話し合う。 ・食べる物は，全部，だれかが育てたり，作ったりしてくれたものなんだなあ。 ・教室で使っている物は，みんなだれかが作ってくれたものだ。 ・自分一人では生きていけない。みんなつながり合って生きているんだなあ。	・人は一人では生きられない存在であり，自分も多くの人々に支えられて生きていることを具体的にとらえさせる。 まど・みちおの詩「朝がくると」を読んで，話し合うと，さらに思いが深まるだろう。
(4)「道」について，先生の話を聞く。 （注）青い目の人形について 1920年代のアメリカでは，日本人移民への排斥運動が広がり，日系の人々は苦難の中にあった。これを憂慮する人たちが，その好転を願って，「人形計画」をアメリカ各州に呼びかけ，「友情の人形」1万2千体余にメッセージを添えて送り出した。日本側も大歓迎し，人形は友情と親善のシンボルとなった。	・「道」は道徳の道でもあることから，道徳の時間の学習の意味や教師の願いを話すのもよい。「道」を人生に置きかえて，「自分の生きたい道」を話し合うのもいいだろう。